

令和元年司法試験 合格体験記

平成30年度修了（既修コース）上田 郁也

14期既修の上田郁也と申します。岡山大学法学部を卒業後、岡山大学法務研究科に進学しました。

ここでは、私が受験中に特に気を付けていたことを二点だけ述べたいと思います。

一つ目は、相手に伝わる文章を書くということです。司法試験は論文試験であるため、自分の思考を文章形式にしなければなりません。また、文章が下手であるというだけで、採点者には「残念なやつ」と認定されてしまいます。そのため、文章が長くなりすぎているか、主語・述語が一致しているかという文章を書く上での基本的なルールに反していないか常に確認するようにしていました。

二つ目は、司法試験の合格に必要なかどうか考えて勉強するということです。法科大学院で勉強することができるのは2年ないし3年しかありませんし、その期間中も常に勉強できるわけではありません。時間は有限であることを意識し、自分が残りの時間で合格するためには何をしなければならないか、常に考える必要があると思います。試験に必要な部分まで丁寧に勉強していると時間もかかりますし、合格も遠のきます。また、何が必要なのかを判断するのに、過去問以上の教材はありません。過去問の分析はどの教材よりも丁寧に分析するようにしましょう。

あまり難しいことをしなくても、上記二点のような簡単なことさえ意識すれば司法試験の合格に格段に近づくとおもいます。受験生の皆さんには、残りの時間を最大限活用し、是非合格を勝ち取って頂きたいと思います。応援しています。

最後になりますが、私が司法試験に合格できたのは、家族や法科大学院の先生方や職員の皆様、友人といった、私に関わってくださった皆様のおかげです。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後は岡山大学の名に恥じないような立派な法曹となれるよう、一層精進いたします。本当にありがとうございました。